



10・11月号

発行所 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内 公益財団法人 茨城県消防協会 編集発行人 消防協会長 葉 梨 衛 印刷所 富士オフセット印刷(株) (1部 15円)

第六十二回 茨城県消防ポンプ操法競技大会地区大会開催

毎年恒例の消防ポンプ操法大会が、十月二日(日)の県央地区大会を皮切りに県内六地区で開催されました。今年度は東日本大震災による厳しい環境のなか、更には昨年引き続き猛暑の中で訓練に励んでこられた各チーム選



10/2県央地区大会での操法競技

第62回茨城県消防ポンプ操法競技大会地区大会結果

平成23年10月23日

地区名	日時	開催場所	出場チーム数	出場選手数	優勝チーム	総得点	所要時間		構成市町村数	
							1線	2線	当番市町村	当番市町村
県北	10/9(日) 8:30	高萩市石滝2490 元茨城県立高萩工業高等学校	8	48	常陸大宮市	344.0	62	73	7市1町1村	高萩市
					那珂市	176.0	49	—	—	—
県央	10/2(日) 9:00	茨城町長岡4068 茨城県立消防学校	9	54	大洗町	326.5	55	64	3市3町	小美玉市
					城里町(七会支団)	119.0	55	—	—	—
鹿行	10/16(日) 9:00	行方市山田3064 行方市北浦第二グラウンド駐車場	5	30	潮来市	327.0	61	69	5市	行方市
					行方市	170.5	52	—	—	—
県南部	10/23(日) 9:00	稲敷市須賀津208 稲敷市桜川庁舎駐車場	5	30	取手市	349.0	56	69	5市3町1村	利根町
					阿見町	175.0	46	—	—	—
県北部	10/23(日) 8:30	つくば市和台地内 つくば市北部工業団地内緑地	11	66	つくば市(筑波支団)	357.0	53	65	5市	つくばみらい市
					石岡市	160.0	50	—	—	—
県西	10/16(日) 9:00	古河市下大野2528 古河市中央運動公園イベント広場	12	72	八千代町	344.0	54	63	7市3町	坂東市
					—	—	—	—	—	—
計			50	300	—	—	—	—	—	—
			27	135	—	—	—	—	—	—

注1 日時は、開会式の開始時刻を示す。 注2 上段：ポンプ車 下段：小型ポンプ

阿見町消防団が優勝 ☆全国大会へ

第二十三回 全国消防操法大会 茨城県代表選考会を開催

平成二十四年十月七日に東京都江東区有明の東京都臨海広域防災公園で開催予定の「第二十三回全国消防操法大会」に出場するため、十一月十九日(土)、茨城県立消防学校において代表選考会を開催しました。

この選考会には、県内六地区で開催した「第六十二回茨城県消防ポンプ操法大会」のなかで、「小型ポンプの部」で優勝した五チームが出場しました。当日は生憎の雨模様でしたが、朝七時の開門を待ちかね

各チームの応援団のバスやトラックが続々と到着し、次々と心援デパートの設営が始まりました。九時からの開会式は、選手の手コンデিশョンを考慮し、屋内訓練場で行いました。



那珂市大内直明選手による選手宣誓



見事な操法を披露

競技を開始する頃には小雨になり、最後のチームの操法が終わりまでは何とか無事に終了することができました。競技は、それぞれに各地区大会を勝ち抜いたチームだけあって、甲乙付けがたい白熱した素晴らしい操法が披露され、応援席からも惜しみない声援が送られていました。結果は、阿見町消防団が激戦を制して優勝し、全国大会に出場の切符を手に入れました。最後に、選手及び関係者の皆様のご協力に感謝いたします。なお、成績と結果は別表のとおりです。

第23回全国消防操法大会茨城県代表選考会結果

平成23年11月19日

順位	消防団名	総合得点	所要時間
			1線
優勝	阿見町	160.5	45
敢闘賞	石岡市	156.0	50
	城里町	154.5	53
	那珂市	153.0	52
	行方市	143.5	49

「東日本大震災の被災地視察研修」報告

茨城県県北支部消防連絡協議会より

県北支部消防連絡協議会では、東日本大震災から七カ月余りが過ぎた十月二十七日、二十八日の二日間、澤畑会長をはじめとする九市町村の消

防団長及び副団長二十一名の会員と県消防協会専務理事、事務局二名の総勢二十五名により、東日本大震災の被災地である、宮城県の東松島町及び石巻市の被災地視察研修を行いました。被災地の視察研修を行うにあたって、東松島町では町の災害担当職員が、石巻市についても市の災害担当職員とともに門脇消防団総括団長自ら案内役をしていただき、実際の体験談をもとに貴重な説明と案内をいただきました。瓦礫の除去が幾分進んだ被災地ではありますが、津波の爪痕が今も手付かずいたるところに津波当時のまま残っており、住宅が建っていたと思われる場所にはコンクリートの土台だけが残り雑草の生い茂った光景が点在するなか、地区によっては全域が被災して家は建っていないものの廃墟

と化し、人もなく生活感のまったくない地区、数百の水産加工場が並ぶ石巻港の沿岸地域では、地盤沈下により今でも満潮時には海水が入り込み水没する地域もあるそうです。また、石巻市の門脇地区では、門脇小学校を含む周辺の住宅二百戸余りが火災となり、五十名余りの犠牲者が出たという事実が、当時の消防活動を行うにも水がな、高台に設けられていた防火水櫃だけが唯一の消火水利だったようです。黒く焼けただれ壁面が剥けた四階建の小学校は、今も当時のままの姿で静



門脇消防団総括団長の説明



参加者全員による記念撮影

かに建っており、何かを語りかけているようにも思えます。誰もが予想しなかった大津波により、避難中の車ごと、避難した体育館で、また暖を取るため衣服を取りに自宅へ戻って犠牲になられた方々、消防団員についても公務中に津波に巻き込まれるなど多く

の犠牲者が出たこと、改めてご冥福を申し上げます。被災地でしか知り得ることのできない生々しい悲惨な光景を実際に目で見、耳にした今回の視察研修で得たものは大きく、今後の消防団活動において大いに参考にさせていただきます。最後に、被災地の方々の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

公益法人としてスタート

平成二十一年から準備をしてきました公益法人への移行につきまして、平成二十三年十月二十五日に公益法人の移行認定を受け、十一月一日から「公益財団法人茨城県消防協会」として新たに事業をスタートしました。

